

入院診療計画書(腓体尾部切除術を受ける患者様へ)

ID番号 @PATIENTID

氏名 @PATIENTNAME 様

症状 @PATIENTWARD 病棟

@PATIENTROOM 号室

病名(他に考える病名)

担当医師 @USERNAME

印

担当看護師

症状 担当薬剤師

@SYSDATE

月日	入院日	術前日	手術日		術翌日~術後2日目	術後3日~4日目	術後4~6日目	術後9日~	退院日							
	(/)	(/)	術前	術後												
経過	入院や手術に関して不安があれば、遠慮なく相談してください		()時に手術室へ移動します		術後はICUに入室します		医師の指示で、水分開始になります		医師の指示で、食事開始になります		少しずつ、日常生活のリズムを戻していきましょう		退院			
目標	手術への準備ができています。安心して手術に臨むことができます。		術前日の流れ 朝起きてから手術に行くまでの流れ 術後はICUに入室します 術後合併症が発症しない。痛みのコントロールができる。		むせりや吐き気がなく、水分を摂取することができます。		医師の指示で、食事を摂取することができます		リハビリがすすむ		日常生活が1人でできるようになる		退院後の注意点が理解できる			
検査	手術に必要な検査をします		<input type="checkbox"/> 麻酔科医師の指示の内服薬があれば服用してください <input type="checkbox"/> 排便がなければ浣腸をします <input type="checkbox"/> 前あきの下着、病院のパジャマに着がえて下さい <input type="checkbox"/> 弾性ストッキングをはいて下さい <input type="checkbox"/> 化粧やマニキュアを落として下さい <input type="checkbox"/> 歯磨き、めがね、時計、ヘアピン、指輪などを外して下さい <input type="checkbox"/> 髪の長い方はゴムで2つに結んで下さい		痛いときは我慢せずに教えてください ICUから一般病棟へ移ります 必要に応じて採血・レントゲン写真		必要に応じて採血・レントゲン写真		採血・レントゲン写真 必要に応じて透視の検査		以下のような症状があるときは、受診日以外でも来院してください。 ・腹痛がひどい時 ・便やおならがなく、お腹の張りが続いている時 ・嘔吐が続き、吐き気がひどい時 ・黒い便が出た時 ・高熱が出たり微熱が何日も続いたりする時		外来受診について定期受診は必ず行なうようにしましょう。			
処置	基本的に処置はありません 禁煙です!!		<input type="checkbox"/> 腕に名前を書きます(医師) <input type="checkbox"/> 準備品の確認をします <input type="checkbox"/> 21時 下剤を内服します(21時以降水分はひかえて下さい) ご不安なときは、ポータルトイレを用意します		酸素吸入 点滴 尿管 胃の管		食事摂取量に応じて、点滴を減らします。術後およそ10日目で点滴は終了の予定です。		傷の部分のドレーンが抜けます		わからない点、不安な点がありましたら、医師や看護師にご相談ください。		<input type="checkbox"/> 次回受診まで、必要な分のお薬が処方されます			
注射	基本的に注射はありません		不安 安心		水かお茶かスポーツドリンクのみにしてください。野菜ジュースや牛乳は、食事が始まるまで控えてください。		薬は正しく服用し、必ず指示通りに内服して下さい。下剤の内服については、便の回数や状態を見て調節して下さい。心配なときは医師に相談してください。									
内服	飲んでおられるお薬はすべて看護師にお知らせください 普段飲んでいる薬は、術前日もいつもと飲んで下さい。中止薬があれば、説明します。															
食事	入院日の食事制限はありません 食事にアレルギーなどはあれば、相談して下さい(希望により、食事変更ができます) 例)ご飯・お粥 牛乳→ヨーグルト		術後許可が出るまで、飲んだり食べたりできません		水分が開始になったら、出来るだけ座って飲むようにしましょう。むせたりしないように、注意して飲んで下さい。		このような症状がありましたら看護師にお知らせ下さい 低血糖時の症状 → めまい、冷や汗、手足のしびれ、動悸 高血糖時の症状 → 異常に口が渇く		脂っこい食事は、下痢になりやすいです。食べ過ぎず、バランスよく摂取して下さい。							
清潔行動	活動、入浴に制限はありません				シャワーの許可が出るまで体を拭きます		必要に応じて、ポータルトイレや尿器を用意します		ドレーンが抜けなくてもシャワーの許可がでる場合があります 傷の部分は、こすらず、シャワーで流す程度にしてください		入浴のときは... 熱いお湯は体の疲労を伴います。長湯にならないようにしましょう。					
リハビリ	スーフル呼吸訓練行って下さい		麻酔から覚めたら深呼吸をして下さい 血栓予防に足の底背屈運動を行って下さい。		術翌日 できれば足を垂らして座ってみましょう 日中はできるだけ起きてみましょう		術後2日目 立ちましょ 足ぶみましょ		術後3日目~ 病棟歩行を毎日行いましょう		スーフル呼吸訓練も行って下さい		職場復帰、旅行などは医師に相談して下さい			
説明	病棟での日常生活をご案内します 手術の予定を説明します		ご家族の方へ病棟フロアのロビーでお待ちください 離れる場合は、待機場所をお知らせください		点滴や尿管、ドレーンが抜けていないので、座るときは看護師を呼んで下さい。		初めて歩行する時は、看護師が付き添います。術後早期に歩き始めた方が、回復も早くなります。		栄養指導を行います		口戻し防止のため、口拭きシートを外します		口戻し防止のため、口拭きシートを外します			

注1) 病名は現時点で考えられるものであり、手術を受ける患者様へお伝えした内容と異なる場合があります。

注2) 入院期間については現時点で予想されるものです。

上記内容について説明を受け同意いたしました

署名:

続柄:

特別な栄養管理の必要性
有 ・ 無